

新聞を読もう！ 全3巻

「三匹の子ぶた」が活躍する絵本といっても、オオカミに家を吹き飛ばされる訳ではない。彼らは新聞にまつわる様々な知識を学び実践する子供記者だ。本書は新聞を学ぶ人のための入門書、全三巻。「新聞って誰がどんなふうにつけているの？」や「新聞って読むの？」そんな素朴な疑問に答

えてくれる。一巻では、新聞を読みこなすスキルが示され、ニュース記事・見出しの書き方や割付けに至るまで、新聞を構成する基本要素が丁寧に解説される。二巻は「新聞づくりに挑戦」と題し、読者が実際に新聞を制作する際に役立つ、具体例満載の虎の巻だ。「取材を終えたらお札の手紙を忘れずに」や「書かれる人の気持ちを考える」など、人の礼儀として大切なことをさりげなく教えてくれるのも魅力だ。三巻では新聞の今昔を学ぶ。国内新聞の歴史や海外の新聞事情、号外、地方紙に業界紙、新聞広告、東日本大震災などを扱う。

「感動した順番に書く」「決めてかからない」「多くの人の意見を聞く」これらは本書で紹介されている

記者の心得の一部だ。一つの記事が完成するのに、どれだけの人の思いと試行錯誤があったかに思いを馳せれば、新聞は決して無機質な紙と活字ではなくなる。新聞を読むこと、新聞を作らんと、どちらも究極的に読者だけだ。肝心なことは、どのような形であれ、正確で信頼に足る情報が読者に提供され続けるか否かに尽きる。それを担保する限りの価値観と触れ合い、そこからも一度自らに問い返しは明るく拓かれるのだから。

三冊すべて読み通せば、新聞全般に関する総合的な基礎知識を習得できる。目的や興味に合わせてこれが一冊を手にとってみるのもよい。小中学校の図書館には、ぜひ常備しておきたい新聞読本シリーズだ。子ども向けの絵本と決して侮ることなかれ。大人でも十分に楽しめる内容だ。惜しむらくは、本書で扱われる「新聞」の括りのなかに、電子版に関する言及が無い点。紙版と電子版双方の編集形式上の相違点や、ノウハウについても触れてほしかったというのは無いものねだりか。そこは密かに続編を期待することにしよう。（お

総合知識を高める新聞読本

子ども向けの絵本と侮ることなかれ

大島 十二 愛

未来の新聞はどうなっていくのだろう。紙の新聞には紙幅の制限がある。そこが電子版と決定的に異なる点だ。しかし制限は不自由だろうか。むしろその制限のなかにこそ作法の妙が際立つ。かつてイタリアの出版者アルドゥス・マヌティウス（一四五〇―一五二五）は、世界初の省スペース斜体活字・イタリック体を発明し、本の小型化に成功した。新聞に用いられる横長の偏平フォントも、最小限のスペースで最大限の情報量を届けようとする原理は同じだ。未来の新聞の形がどんなものになるのか、それを再発見するに違いない。



- 1 新聞を読んでみよう!
- 2 新聞づくりに挑戦!
- 3 新聞博士になろう!

「新聞を読もう！」全三巻

- ①新聞を読んでみよう！
978-4-7746-1644-5
- ②新聞づくりに挑戦！
978-4-7746-1645-2
- ③新聞博士になろう！
978-4-7746-1646-9
(各260×210mm・各56頁
・各3465円(揃定価10395円)・教育画劇)

歴史社会学専攻）
★すずき・ゆうが氏は上智大学教授・ジャーナリズム史・国際コミュニケーション専攻。監修に日本初期新聞全集「韓国メディアの現在」ほか。一九五三（昭和28）年生。